

第13期 第15回 鳥取市校区審議会 議事録

- 1 日 時 平成30年4月24日（火）14時 ～ 16時50分
- 2 会 場 鳥取市役所 本庁舎4階 第2会議室
- 3 出席者 **【委員】**
本名俊正委員（会長）、野口淑文委員（副会長）、渡辺勘治郎委員、
長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、
山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会（事務局：校区審議室）】
中村隆弘次長兼教育総務課長兼校区審議室長、石上直彦教育総務課校区審議室主査、
敷下昇教育総務課学校施設係長、大坪宗臣教育総務課校区審議室主任
- 4 会議次第
 - 1 開 会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事録署名委員の選任
 - 4 報告
(1) 第14回校区審議会審議概要について
 - 5 議 事
(1) 江山中校区の学校のあり方について
(2) 千代川以西エリアの学校のあり方について
 - 6 その他
 - 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

ただいまより、第15回鳥取市校区審議会を開会させていただきます。

私は、このたび4月より教育委員会事務局次長兼教育総務課長を務めさせていただくことになりました中村と申します。どうぞよろしく申し上げます。

前回の第14回校区審議会では、江山校区の学校のあり方について、2つの答申案をもとに、ご審議いただきました。今回も引き続き、江山校区の学校のあり方についての答申案の内容をご審議いただきたいと思います。また、昨年10月に中間まとめにもご記載いただいた千代川以西エリアについてもご審議いただき、事務局として地域にどのようにアプローチしていくかも含めてご意見を伺いたしたいと思います。

それでは、会長よりご挨拶をいただき、以降の会の進行をお願いします。

会長

皆さんこんにちは。江山校区の学校のあり方について、前回まで継続してご審議いただいておりますが、課題の内容がなかなか豊富で、色々と考えなければならないことが多く、なかなか結論に至っておりませんが、少しずつ結論に近づいているのではないかと思います。

もう一つの、千代川以西については、20年も前からの課題ということで、やはりできるだけいい

形で将来に向かったいい解決方法、子どもたちの安全を第一に考えた形での解決方法を考えていきたいと思います。

皆さんのご意見を伺いながらまとめていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、日程3の議事録署名委員を選出したいと思います。名簿順により、渡辺委員、川口委員、よろしくお願いします。

はじめに報告事項でございますが、事務局より説明をお願いします。

事務局

[資料説明]

会長

ご意見やご質問はありませんでしょうか。

ないようでしたら、先に進めさせていただきたいと思います。それでは議事に入ります。報告がありましたように、一貫ということについては、小中の校舎を同じにできるのであればということで、進んできたと思います。一貫を段階的にするのか、一度に進めるのかということを含めて議論をお願いしたいと思います。

前は、江山中学校の校舎の改築時期、生徒数の増減を含めて考えてまいりました。生徒数は、当面はあまり大きく減少せず、現状に近い形で、生徒数は推移するということです。江山中学校については、改修の時期に差し掛かっていますが、80年くらい使用していこうということで文部科学省でも示されており、鳥取市でも非常に長いスパンでの建物の維持管理を目指しているということがあります。それから、美和小学校の空き教室のことを考えると、普通教室については中学生を受け入れることができるだろうということですが、そのような増築ができれば十分な小中一貫教育ができるのではないかとということでもありましたが、そのようなことを考えますと、神戸小学校と美和小学校の統合だけでなく、江山中と併せて中学校の教育も一緒に行った方がいいのではないかとのご意見もありました。校区審議会では、小学校の課題だけでなく、中学校についても課題があるということで、地域でもご検討いただくようお願いをした経緯があり、中学校だけを置いておくわけにはいきませんので、様々な検討を行ってきました。中学校については、場合によっては、高草、南、河原との統合も考えられるわけですが、地域の要望と合致しないため、中学校がなくなるということについて、なかなか地域からの了解を得るのがそう簡単ではないということで、小学校と一体型として残した方がいいのではないかと方向になったかと思います。ただ、一体型でも、1回目に小学校の統合だけを、2回目に小学校と中学校と統合するとなりますと、段階的になりますので、その辺の審議をお願いしたいと思います。もう一つは、地域の方に「我が校」という強い意識を持っていただいて、支援体制を取っていただかないと、これからの学校運営は難しいということです。地域の状況はどうかということで、今まではこちらの問いかけに対して返事が来るのを待っていたという状況でしたが、どうもそれではなかなか本音のところがかめないということで、4月3日に私が地域に出かけて行きまして、地域の方5名の方と話し合いの場を設けました。その時の状況を事務局からご報告いただいて、その後審議をお願いしたいと思います。

事務局

地域との意見交換会について概要を簡単にご報告いたします。

まず、5名の方々というのは、この審議会にもお出でいただきました、江山校区の学校のあり方を考える会副会長と事務局を務めておられる委員さん、神戸小・美和小・江山中それぞれのPTA会長でございます。そして会長と校区審議室職員2名が伺い、4月3日の午後7時から大和地区公民館で行いまして、終了したのがだいたい午後10時ぐらいだったかと思います。先ほど会長からもありましたが、地域のサポートが必要だということ、校区審議会の審議経過等を会長から説明いただいた後、忌憚のない意見をということで、ざっくばらんに話をしていこうということで、一人一人が今考えておられることですか、特に3人のPTA会長におかれましては、それぞれのPTAの皆さんの様子ですとか取組等についてもお話をいただきました。その中で、最終的には、江山校区の学校のあり方を考える会が検討をしていくことは難しいだろうということで、どうしていくのがいいのかということだったのですが、3人のPTA会長が中心となった会を立ち上げていこうという話をされまして、可能な限り、どんな学校を目指すのか、なぜ目指すのか、そのあたり具体的なことを検討していこうということで、その日の会は終わりました。

その後、状況をお尋ねしましたところ、会の人選をされたということで、本日の夜に第1回目の会議を開催されると伺っております。構成メンバーについては、意見交換会にご出席された5名と、それぞれのPTAから一人ずつ出ていただくということで3名、学校長3名の合計11名でスタートされるということです。

簡単ですが、以上です。

会長

ありがとうございました。

私を感じた点をいくつか申し上げたいと思います。

地域から要望書が出てきているわけですが、この要望書については必ずしも地域の方に周知しているというわけではなさそうです。特に、中学校のPTAについては、高校進学の方に頭が一杯で、中学校の現状をどうするかというよりは、子どもの中学校より先のことを考えているというようなことがありました。小学校のPTAは非常に積極的で、十分に周知されていると感じました。小学校同士の統合については、美和小学校が神戸小学校を吸収するということではなく、対等の統合を考えているということで、この点はPTAで十分に周知しているということです。したがって、吸収だから賛成だということではなく、美和小も神戸小も一度廃校になって、新しい小学校とするということで考えておられるようでした。

中学校については、今のままいくと地区との結びつきが非常に弱いので、どこかで地区の結びつきを考えると、小学校と一緒にした一貫校で、新しい学校の中で、地域の思いを反映させるような形を取るとより良い地域との結びつきが生まれ、良い教育ができるのではないかと思います。

それから、情報がなかなか行き届いていないという感じを持ちました。要望書の内容についても、他の地区から出た要望書についてもPTAの方がご存知ないようで、ごく一部の方だけが知っていてやっておられるということのようで、情報の周知というのがなかなかまだ十分に進んでいないというふうに感じています。

ただ、地域からの返事を待つということで、地域に期待していたのですが、少し過大な期待をしていた部分もあったかなと思っています。やはり教育委員会や校区審議会として、まとめ方にしても多

少のアドバイスが必要だったかもしれません。地区の思いをまとめるような形で進めてもらうような方法を考えていかないといけないと思います。以前、副会長が地域にそこまで期待しても難しいのではないかとおっしゃっておられましたが、そのような部分もあるという感じがいたしました。地域には多種多様な意見がございます。特に神戸地区は、PTA会長が非常に積極的に活動をされており、実際にどんな学校が望ましいかという話し合いを持たれています。そういった動きを支援するような何かが必要ではないかと思えます。我々も待っているばかりではなく、何かそういうことも必要ではないかと思えます。やはり、地域からの支援がこれからの学校の運営には必要ではないかと思えます。たとえ、小学校と中学校が別々だとしても、新しい小中一貫校ができたとしても、地域の支援が非常に重要で、それがないと、学校単独ではなかなか運営が大変ですので、地域に学校の運営について支援をお願いしたいということをお話させていただきました。

それから、考える会の方との意見交換ではないのですが、個人的に小中一貫校の校長経験者何人かにお会いしてお話を伺いました。そのお一人は、福部未来学園中学校に校長としておられた長石校長先生です。長石校長先生は、その地区ならではの特徴を出した教育が必要であるとおっしゃっておられました。例えば、福部は福部としての特徴ある教育について要望書の中に明確に書かれていますが、そのようなことが必要であるということです。それから、湖南学園の校長をされておられた片山校長先生は、地域の支援がないとなかなか運営が大変だということでした。地域が熱意を持って応援していただくことで、学校の運営もスムーズにいくということでした。お二人のお話を聞きますと、地域の支援と特徴ある学校づくりということがありました。もう一つ、小学校と中学校がくっついた場合の良い点は、子どもたちにとっても良いということはもちろんありますが、教職員にとっても両方の学校を熟知するということが、教職員の力が向上するということがあるようです。一貫校づくりには今までにない困難さがありますが、それを乗り越えるだけの地域の支援があり、教職員の研修を含めた努力があったというふうに伺いました。

本日は、そのようなことを踏まえて、ご検討をお願いしたいと思います。前回、美和小学校の校舎の中に中学校もほぼ入るということを確認しました。そして、一部増築しながら一貫教育を検討していったはどうだろうかということを検討してまいりました。それと、最初は小学校だけの統合をし、しばらくして中学校と小中一貫校とするか、一度に3校を一緒にして小中一貫校とするかということがありましたが、いずれにしても相当の準備が必要だと思います。「B-2案」と「B-3案」を含めてご説明をいただき、議論を行いたいと思います。

事務局

[資料説明]

会長

ありがとうございました。資料について何かご質問はありますか。

それでは、「B-2案」と「B-3案」についてですが、一度に小中一貫にするか、段階的に小中一貫にするのかこのあたりを含めてご検討いただきたいと思います。前々回にA案とB案を検討した時は、施設分離という前提でしたので、なかなか効果が上がらないのではないかとありました。そういうことで、B案の小学校だけ最初に統合するという考え方になったのですが、その後にも可能であるということで、前回もその方がいいのではないかと「B-2案」ということになり、それを進めるにあたって、段階的にやるか1回でやるかという議論に至っています。子どもた

ちのことや学校の教育目標のことを考えますと、例えば最初は小学校だけで考えて、また数年のうちに中学校も含めた一体型での一貫教育の教育目標などを考えていくと、子どもたちにとっても学校にとってもなかなか大変ではないかと思えます。1年から2年程度、十分な準備のために時間をかけて1回で進めた方がいいのではないかと思えます。一体型・一貫型で3校が絡むということは今までにない例ですので、非常に難しい部分もあるかもしれません。1回で進めるとなると、3校を一度廃校にして、新しい学校をつくるということになるかと思えます。このあたりについてご意見をいただきながら、進めていきたいと思えます。限りなくA案に近い部分もあります。そのあたりをどのように理解していったらいいかということも含めてご意見をいただきたいと思えます。

委員

私は地域にエネルギーがあるときに一度につくった方がいいのではないかと思えます。例えば小学校同士を統合して、校章や校歌なりを作り上げていき、また何年か後に同じことをやっていくというのは、相当なエネルギーがいると思えます。やはり、今、地域の方が新しいものをつくっていている芽があるときに、一つの一貫校をつくった方が、いいのではないかと思えます。したがって、私は「B-2案」が良いと思えます。

委員

私は、長期的なことを考えて中学校のあり方も視野に入れてもう少し議論が必要ではないかという思いはあるのですが、小学校が合併するとなると、もし中学校も一緒になるのであれば、一緒の方がいいという思いはあって、なおかつ時間は少ないのですが、この校区審議会の中で長期的な立場に立って、江山中学校は小規模になっても残す方向が出れば、「B-2案」のように一度で統合する方がいいのではないかと考えています。そのあたりの議論が進めば、小中一緒にした方がいいのではないかと感じています。私も色々考えてみても、河原中との統合については、河原の保護者などに聞いてみると、保護者の意識もおそらく地域も、新市と旧市ということで、学校は統合できないだろうという雰囲気があって、まずないと思えます。南中については、川がありますし、地形的にも難しいと思えます。そう考えると、高草中かと思うのですが、そのあたりがすぐに決まらないという判断になり、中長期的にも考えて他の中学校との統合はないかと判断できれば、江山中学校は「B-2案」で残すという方向でいいのではないかと思えます。

委員

結論は、「B-2案」です。そうなること、喫緊の課題である小学校の統合はどうなるのかということになるのですが、3校が同時にスタートできる適切な時期までは、何とか神戸の子どもたちを美和と交流させて、そういう配慮をしながら、人の交流や職員の交流を通じた準備期間をうまく活用していけばいいのではないかと思えます。4月3日に会長と事務局が地域に行かれたということもあって、PTAが動き始め、その中に3人の校長が入り、今日の夜に第1回目の会議が開かれるという期待感を抱きながら、そうやって最終的な3つの学校が一つになったときのゴールイメージを話し合っていくのかなというふうに思えます。

委員

小学校を統合してそこに中学校を近づけて校舎一体型で小中一貫校を進めていくうちに、文科省か

らも新たな活性化につなげる施策が出るのではないかと思います。私も「B-2 案」がいいのではないかと思います。

委員

地域の方の意識は薄いのではないかと思います。役員の方だけが一生懸命やっておられますが、他の方はあまり関心がないのではないのでしょうか。自治会長に伺ってみますと、小学校が一緒になればいいと言われましたが、地域に中学校を残していくためには小中一貫がいいという考え方が出てきて、それで進めようというところまではいったのですが、それ以後は何の話し合いもされていないということでした。先日、それぞれの学校の PTA 会長が主になって研究を進めてもいいかということ、大和と美穂の自治会長のところに言ってこられたので、それであれば進めてくださいということをおっしゃったということです。地域に小中一貫校を検討しているということがもう少し伝わらないといけないのではないかと思います。地域としては、まだこれからだということをお自治会の代表者の方にはおっしゃられます。

副会長

私も皆さんがおっしゃられるような「B-2 案」しかないのだろうなという考えではあります。江山校区の方が、どこの中学校と一緒にしたいということはなかなか出にくいでしょうし、中学校同士の統合が難しいと言ってしまうと、江山中校区の中で解決していく以外に選択肢がないと思います。長期的に見て、市全体で見てどうなのかということをお今からやるのか、10～15 年先の方にやってもらうかということだろうと思うのですが、基本的にはやはり江山校区だけでは規模としては小さいので、高草中などと一緒にの方が本来いいのではないかと思います。しかし、会長が地域とやり取りをされておられる中で、これから中学校同士の統合に持っていくということはできないでしょうし、現段階の結論としては、「B-2 案」になるのではないかと思います。前回から、そのような結論に決まっていると思っておりました。

委員

私としても「B-2 案」しかないだろうなと思っています。「B-2 案」の 3 ページの (3) の「十分な準備の上、適切な時期に」といったときに、何年先を私たちが想定しているのか、平成何年までということまでは書けませんが、おおよその目安というか、このままの表現でいいのかどうか検討すべきだと思います。この表現ですと、受け取り方によっては先延ばしにできるわけです。また、地域から、それはいつまでにすればいいのかという問いかけも来るかもしれません。境港市の答申が参考資料として綴られています。こちらには「なるべく早期に」という表現があり、このように書いてありますと、スピーディーに関係する方々も動かれるでしょうし、私たちとしてどのように時期を設定するかといった議論もした方がいいように思いました。

参考資料 27 ページに美和小の平面図がございます。前回、私が質問をしたことについて、赤字で記入されていますが、これらのハード面の整備がどのくらいでできるのか、ある程度共通認識をしておいた方がいいと思いました。

私としては、「B-2 案」について時期が気になっているところです。

委員

私も「B-2案」で、小中一貫を一度に進めてはどうかと考えます。前回は、地域からの声というようなお話がありましたが、これまでは一部の方しか考えていない部分もあったのではないかとこのころが、地域の中でPTA会長や学校も含めて江山地区として考えていく前向きに向かっているような姿勢が見えてきているようですので、江山地区全体の子どもたちのことを考えて、最初は神戸小学校の統合をまずは行うということもありましたが、皆さんがおっしゃられるように準備期間を持って、一度に小中一貫に持っていく「B-2案」でいいのではないかと思います。

委員

私も今までの議論の経緯も含めまして、「B-2案」がいいのではないかと思います。神戸小学校の現状を見させていただいて、いつまで児童を待たせるのかということもあり「B-2案」と言いながらもどうだろうと思うところもあります。ただ、〇〇委員さんもおっしゃられましたが、統合だとか、新設校を設置するといった時に、地域、PTA、学校の中でもそれまでの準備というのは大変で、3月31日の12時になってようやく終わったというような話を今までも聞いています。

地域の方、PTAの方、学校の教職員にとっても、同じ地域の中でそのエネルギーを持続していくというのはかなり力が必要になってくると思います。できるのであれば、それらを一度に取り組んだ方が、色々な取り決めなどもしやすいと思いますし、それが完全であると言えない部分もあるのですが、今の中では「B-2案」の方がいいのではないかと思います。

委員

私も「B-2案」というふうに思います。小学校も中学校も一度に考えていった方がいいと思います。また、特色のある、他にない魅力のある学校をつかってほしいと考えています。他の地区からも行きたくなるような小中一貫の学校や義務教育学校、例えば9年間の中の教科担任とか小学校の時から英語教育をするなど地域に合うといいですか、魅力のある学校ができたらいいなと思います。

委員

私も「B-2案」に固まりつつあります。江山中を義務教育学校としてしまうと、千代川西岸の整備をすることを考えると、ネックになるのではないかと考えています。先ほど旧市と新市では合併はあり得ないだろうとご意見もありましたが、実際にはかなり以前は長谷から通学している子どもがいました。その時は市と郡で分かれていたのですが、そのようなことがありました。神戸地区の方から、旧市域に出るよりも、河原の小さい店に出た方が、買い物がしやすいという話も聞きますし、合併するのに、旧市と新市というのはそんなに感じないなというのが意見です。

神戸地区が早く他地域との統合等をされたいという要望を出されていますが、そこが少し後回しになってくるのが気になりました。

会長

ありがとうございました。全体としては「B-2案」で、一体型で進んでどうかという方向になりそうですが、課題がやはりありそうです。一つは、施設の整備についてですが、全てが完全に整備されなくても大方支障がない程度になるまでにどのくらいかかるものでしょうか。

事務局

建物が完成するまでの期間ということですが、まずはどのような整備をするのか、何を求められるのかといったことで、設計の内容もかなり変わってくると思います。一般的には、設計に1年間、新たに増築棟などを整備する場合に1年から2年の期間がかかると思われます。ただ単に、既存の施設の改修であれば、1年程度と思われますが、いずれにしても設計の段階で地域や学校との協議の中で、何を求めるのかということによって期間は違ってきます。

会長

そうしますと、早くて設計と整備を合わせて2年ということですね。やはり中学校全体としてのあり方ということを検討した中で、決めた方がいいのではないかとということで、その部分の課題は残ります。

河原中学校との統合が規模としては程よく、高草中学校との統合ももう一つ考えられます。南中学校は大規模ですし、橋を渡るということもありますので、なかなか難しいのではないかと思います。ただ、地区としては、学校がなくなるのは地区自体が衰退するのではないかと心配があります。中学校がなくなると、若い方はどんどん市街地の方に移ってしまい、人口が減ってしまうということになります。そうすると、小学校の子ども数も減るので、中学校は当面残してほしいという希望を先日の意見交換で感じました。地区のこれからの発展ということを考えると、生徒数が多い年は100人程度、少ない時で60人程度というのがしばらく続くようですので、当面は学校を残して集落をそんなに衰退させずに残して、いずれ市全体の人口が減ってきた段階で、他の学校との統合というのが再び出てくると思います。ただ、今の段階で江山地区から学校をなくすというのはなかなか厳しいという感じを受けました。また、地域からの同意を取るということについても難しいと思います。当面は、地域が望む形でとなると「B-2案」ということで、いい学校をつくっていただくのが当面の課題ではないかと思います。

おそらく今後、市内全体の小学校、中学校において児童・生徒数の変化というものが大きく出てくる時期が来るのではないかと思います。神戸の子どもたちが美和に通うのが遅くなるということがありますが、その間は週に1回とか2回とか美和小学校に通うような手立てを教育委員会として考えないといけないのではないかと考えています。神戸小の児童の1年生が昨年も1人、今年も1人という状況で、児童同士のコミュニケーションが十分に取れる状況ではありませんので、なるべく早く、平成32年を目指す形にして、今からでも神戸小の少人数のクラスは週に何回か授業が受けられるようなことを進めていただけるように、教育委員会にお願いしたいと思っています。

〇〇委員さんがおっしゃられましたが、地域でなかなか議論が盛り上がらない部分もあるのですが、学校がなくなると困るということで、学校を支援するという気持ちをこれから持っていただきたいと考えています。

●●委員さんのご意見で、義務教育学校になると他の地域の学校との統合はなかなか難しくなるのではないかとということがありました。確かにそれはあると思います。ただ、義務教育学校が最終形ではなく、過渡期の形でもあると思います。湖南学園が、11年目に入っていますが、この学校が始まるときにモデルとして、視察に行ったり指導を受けたりした学校というのは宮崎県にあったそうです。しかし、現在はその学校はなくなったそうです。目標を達成したのか、あるいは児童生徒数がさらに減っていったのかわかりませんが、この小中一貫校はなくなっているそうです。そういったこともあ

り、時代によって変わってくる、変わらざるを得ないというところも出てくると思います。鳥取市には、義務教育学校は現在、3校ありますが、ここでも児童生徒数が極端に少なくなれば、また考えなければならぬ時期は来ると思います。将来的に、江山中学校も他の中学校と合併しなければならない時期も来るかもしれませんが、今すぐに河原中や高草中と統合するというのは、地域の了解を得ていくにはとても1年や2年で難しいと思います。当面は、一貫校として残して、成果を上げられるように、特色ある教育をしていただくのが一番いいのではないかと考えています。その他にも、課題がいくつもあると思いますが、地域の熱意を育てるということで、本日PTAが呼び掛けて新しい会をつくられるということですが、十分議論いただけたらと思います。先ほど、十分な準備の上、できるだけ早くというご意見がございましたが、およそ2年は準備にかかる、あるいはかけた方がいい状況であると考えています。当初、要望書が出た段階では、1年でということでしたが、それは今の江山の地域の状況では難しいです。十分に準備をして、新しいカリキュラムを考えていただいて、支援体制をつくっていただいてということになると、やはり2年くらいというのが目標になるのではないかと感じています。それが、3年も4年もかけると、神戸の子どもたちがいつまでたっても良い環境で教育が受けられないということにもなります。

そのようなことで、一応「B-2案」をもとに、ある程度内容の修正を行って、進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、この後、細かい部分で、文章の修正が必要になってくると思いますので、委員の皆さんにご覧になっていただいて、修正を行ったうえで、もう一度確認していただいて、答申をしていきたいと思います。次回は修正したものを確認していただくということで、今から2週間ほどかけて修正いただいて、それをもう一度見ていただいて、答申を作成していきたいと思いますが、事務局はそういった段取りでよろしいでしょうか。

事務局

承知いたしました。そのように努力させていただきたいと思います。「B-2案」をベースにということでしたが、先ほど委員よりご指摘いただきました内容につきましては、答申案に反映する部分は比較的限られてくると思いますので、このあたりは事務局なりに考えますが、最後に委員の皆さんのご意見を再度いただく形になるかと思っております。次の審議会までに、必ず委員の皆さんに答申案をお送りして、ご意見をいただいてその内容について調整をするお時間は取れると思いますので、このような形でよろしければ進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

会長

わかりました。今日の議論をまとめて修正をして、その後なるべく早く皆さんにお送りしますので、それについてご意見をいただいて、それをまた反映した形で最終的に次回の校区審議会で答申案をまとめていくという形ですね。よろしいでしょうか。

委員

確認させていただいてよろしいでしょうか。美和小学校の校舎に、小学校と中学校を置くということですが、これは義務教育学校ではなく、校長が二人いるタイプの学校であるということによろしいでしょうか。

もう一つは、今晚1回目のPTAを中心とした会が開かれるということですが、地域の方々が、校長先生を一人とした義務教育学校をとすることを提案されるような意見が出た場合、そういった形も認

めるか認めないかということも確認できたらと思います。

会長

その部分は、戻るようですが、限りなく A 案に近い考え方になるかと思います。まだその部分は議論が十分でないところがありますので、そこをお伺いしたいと思います。例えば、「B-2 案」の 3 ページの (3) に「小中一貫型小・中学校又は義務教育学校」という答申の仕方もあるかもしれません。大きく違うのは、校長が一人ということです。どちらを目指したらいいのか、義務教育学校の案まで戻った方がいいのか、教育委員会に任せるのか、小中一貫という形だけで答申をするのか、そのあたりの議論はまだ十分ではありません。先ほど、〇〇委員より、義務教育学校でもいいのではないかというご意見もありました。A 案として義務教育学校という案を出してきましたが、これまでの議論の中で一度 B 案とするような流れもあり、私もなかなか B 案から戻りにくいこともあり、そのような表現はしておりません。ただ、教育委員会は、小中一貫校を 3 校とも義務教育学校に移したことを踏まえると、市内の学校種として、義務教育学校があり小中一貫型小学校・中学校があるというのは、位置づけが複雑になるのではないかと思います。どのような表現にしていくのか、皆さんのご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

市の考え方というのはいかがでしょうか。

事務局

今回の議論についてということではなく、福部や鹿野のケースで話をさせていただきたいと思えます。鹿野の答申では、義務教育学校または小中一貫型小学校・中学校という表現でした。その理由の一つとして、どういった学校の形なのかは校区審議会が示すものではなく、教育委員会で判断してもらうことではないかということがありました。それともう一つが、まだ義務教育学校という制度がスタートしていない段階でしたので、「または」という表現であったと認識しています。福部や鹿野については、そういう状況がありましたので、現在の形には既になっていましたが小中一貫型小学校と中学校ということですぐに規則を改正しました。その後、全国の取組を聞く中で、教育委員会として 1 小学校 1 中学校という形で、さらに施設一体型ということであれば、より義務教育学校とした方が、効果は大きいだろうということで、条例を改正して義務教育学校としました。

委員

考える会として検討するのは、どんな学校にしていきたい、どんな子どもをつかっていきたいということで、結果としてそれが義務教育学校なのか小中一貫型小学校・中学校なのかは、そういう学校を、そういう子ども像を目指すのであればどちらがいいか教育委員会主導でアドバイスなり判断してもらってもいいのではないかと思います。そこまで、地域の方が考えると、色々な要因が出てきて、なかなか決定しないと思います。

会長

それでは、「小中一貫型小・中学校又は義務教育学校」の設置ということで、2 つを候補に挙げて、

あとは教育委員会で、地区との関係だけでなく鳥取市の教育をどうするかという大きな立場での判断をしていただくということではいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局

事務局で本日の審議を受けて案を作成させていただくにあたり、最後に確認をさせていただきます。「適切な時期」というのを変更するというのが一つあったかと思います。それから、「小中一貫型小学校・中学校又は義務教育学校」にするということがありました。また、ハード面について、施設についても必要なものを整備していくということをごどこかに入れるようにということもありましたし、〇〇委員がおっしゃられた、開校までの準備の間に小学校の児童の交流といったことも入れた方がいいのではないかとということもありました。そのようなことも盛り込ませていただくということではよろしいでしょうか。

委員

江山の件で審議に時間を費やした中に、将来的に合併も選択肢にあるということも議論に上がっていたということをご皆さんの同意のもとでしっかりと付け加えていただけたらと思います。中長期的な検討もされたということも一応書いておかないと、長期的な視野に立った検討もされていないのではないかとと思われるので、そのあたりをしっかりと書いていただいて、議論した中で小中一貫校になったという形がいいのではないかと思います。

会長

そのあたりも入れていただいて、まとめていただければと思います。他にございませんでしょうか。

委員

事務的なことですが、3ページの(3)の部分だけでなく、他の部分も「小中一貫型小・中学校又は義務教育学校」とする必要があると思います。

会長

そのとおりです。ありがとうございます。

5月の末に教育委員会が開催されます。次回の校区審議会は、その前に開催させていただくことになるかもしれません。6月の末にも教育委員会があるようですが、我々の任期は6月27日までですので、委員の皆さんとのやり取りがスムーズに進むのであれば、5月の末の教育委員会の前に、もう一度この委員会を開いて、最終的に確認をしていただいて、教育委員会に答申をしていきたいと思いません。

江山については長い間、何度もご検討いただきました。現地視察もしていただきました。色々な事情が次々とわかってきたということで、当初は中学校の合併を考えるべきではないかということもあったのですが、なかなかそれも困難な状況でして、結論的には小中一貫あるいは義務教育学校ということで答申させていただきたいと考えておりますが、一番大事なのはこれからです。これから、該当する小学校と中学校の校長先生方、地域のPTAの方、公民館の方を含めた熱意あふれる議論の中で、より良い学校をつくっていただくというようなことを、応援していただけたらと思います。

それでは、議事2に入ります。いくつかの課題解決のための案をつくっておりますので、これらをもとに審議をしていきたいと思ひます。まずは事務局から説明をしていただきたいと思ひます。

事務局

[資料説明]

会長

本日はこの4つの案について、これ以外にも考えられるかもしれませんが、お一人ずつ、どんな案が考えられるかということと、地域の方からの意見の吸い上げ方についてこんなことはどうだろうかということについてご意見を伺いたいと思ひます。

委員

案1が理想のように見えるのですが、なかなか進んでいかないのではないかと印象を受けました。意見の吸い上げについては、町内会などに説明に行く、あるいはアンケートをとっていくしかないのではないかと思ひます。そうした場合に、案1ありきのようなアンケートの方が進んでいくのではないかと思ひます。真っ白な形のアンケートであれば、今のままでいいのではないかと意見になり、なかなか進んでいかないと思ひます。何かしら案があつて、このように将来やっていきたいが、それについての意見はどうでしょうかというアンケートの方がいいのではないかと思ひます。

委員

私も案1がいいのではないかと思ひました。あれこれと色々な条件を加味していくと、進められなくなるのではないかと思ひます。

委員

安全面を考えると案1がいいと思ひますが、様々な歴史的背景や事情を考えると、城北小校区というのは、浜坂や中ノ郷に分かれるまでにバスで通っていたということもありますし、安全面という面では多少はそれで軽減できる部分もあると思ひますが、児童数の増加を考えると、校区の再編成がどうしても必要になってくると思ひます。実際に、千代川以西については、北中校区ということで住宅を購入された方もあつたと聞いておりますし、最近では田島のあたりでも北中校区ということで住宅販売の関係で目にしますが、この校区だからということで住宅を購入されることもあると思ひます。したがって、購入時点でこういう約束であつたのに、また違ってくるとなるとなかなか難しい部分も出てくると思ひます。なかなか一概に言い切れない部分もありますが、予算的な面から新しい学校をつくるということは非常に不可能だと思ひますし、近隣の学校と一緒になるということも考えられるのですが、一つの考え方としては中学校の生徒については従来どおり北中という形の案も考えられると思ひます。地域との話し合いというのを考えているときに、ここの地域というのはいくつもの町内会があり、さらにその町内会の中も分かれていたりするので、皆が集まって話をするというのは、非常に難しいと思ひます。最初の段階としては、地域へのアンケート調査というのは非常に大事ではないかと思ひます。どれくらい意見が集約されるかはわかりませんが、そのような声も聴いた上で、進めていかないと難しいと思ひます。

委員

この校区の懸案は続いていますし、児童数も増加してきていますので、ここである程度方向性を出さないといけないかと思います。したがって案1か2で進んでいってはどうかと思います。

声を吸い上げるという点では、地域の方が集まるのが難しければ、アンケートなりをして声を出していただくというのがいいのではないかと思います。

委員

千代川以西エリアにお住いの方々が、本当に子どもに千代川を渡らせたくないと思っているかどうかは、しっかりとアンケートなどで把握をしないといけないと思います。おそらく今のところは、校区審議会として危険性を指摘しているだけで、住民の方々が本当に危険性を感じているかどうかというデータがないので、そのようなデータを取っていく必要があると思います。その場合、素直に聞いた方がいいと思います。校区再編というような文脈は抜きにして、純粹に、子どもに千代川を渡らせたくない、渡ることが危険であると思っているのかどうなのかということ、まずつかむ必要があると思います。その結果、住民の方々が危険性を感じておられるならば、それを裏付けにできるのであって、今のところそういったデータがないので、把握した方がいいと思います。

また、住民の方にお尋ねしたいのは、中学校区の問題で、北中に通えるのであれば城北小でなくてもいいと思っているのかどうなのかということです。鳥取市では1つの小学校から複数の中学校に進学するといった形態がないと以前伺いましたが、もし大正小や世紀小から、高草中に進学する子と、北中に進学する子に分かれるといった形がどこまで可能なのかといった話になると思います。他はすべての小学校の子が、その同級生がみな同じ中学校に通うように設定されているようなので、一つの小学校から複数の中学校に通うことについて、これからどのように理解を得ていくのかということになるのかなと思います。

4つの案の中からどれがいいということは、まだ申し上げられませんが、案3の新たな小学校というのは難しいでしょうし、案4にするとまた進まないと思います。案1や2に進むとしても、アプローチとして、こちらから十分に準備していかなければいけないと思います。

委員

私の耳に届くのは、全ての保護者の声ではありません。校区審議会は千代川以西の子どもを異なる学校に通うようにしているのですかとか、もう決まったのですかとか、北中に通えなくなるのですか、というように強く言われた方はおられます。しかし、それが全ての実態だとは思っていません。やはりデータが欲しいです。それもアンケートがいいと思います。夜の会を開いても来られない方も多いと思います。それから、学校のあり方を考える地域の会を立ち上げて云々という所ではないと思います。行政が同じアンケート項目をつくって、これはどうですか、どう思われますかというものをもとにして、実態として校区審議会がその情報を握って、このようなデータをもとにこのような案をつくりました、というようなことがスタートではないかと思いました。私は、答申は第13期ではできないと思っています。

副会長

アンケートは必要だと思います。しかし、100%どちらかになるとは思いませんが、アンケートの内容を考慮するにしても、世代などの意向を踏まえた上で最終的にははっきりと決めていくことが必要になるのかと思います。確かに、どこの校区に通いたいということは耳にしますので、それをあまり聞きすぎるとどうにもできないでしょうし、そのあたりを何か理由をつけて決定することも必要になるのではないかと、今のところはそう感じています。

委員

千代川を渡らないということを考えれば、案1か案3になると思います。ただ、案3の学校を建てることになれば時間がかかると考えますし、また場所をどうするかということもあります。また、場所によっては大きな道をまたいで危険になるということもありますので案3はなかなか難しいと思います。案1にしても、全部を千代川以西に校区再編するとしても、世紀と大正は遠いということもありますし、なかなか地域の方は納得されないだろうと思います。案2と案4については、結局千代川を渡る方が出てきますので、課題が解決できないということになります。先ほど〇〇委員もおっしゃられましたが、なかなか第13期に答申を出すということは難しいと思います。地域の方に聞いてみましても、校舎を建ててもらうのが一番いいと思うが、仮に新しい学校に全員が来るかといったらなかなかだろうし、北中に行けなくなると反対されるだろうし、なかなかそのあたりが難しいというのが、地域の方の考えのようでして、一筋ではいかないような感じがしているところです。しかし、いつかは解決していかないといけないことだと思いますので、何らかの形で平成27年度の時より少し進んだ形で答申ができればいいと思っています。

委員

千代川以西がなぜ危険かという、橋を渡るからです。これには、対応していかないとはいけません。それに対応する案が2つほどあればいいのではないかと考えるのですが、その中で校舎を建てるというのはかなり違うやり方ですし、今までに出た案ではないと思います。可能でないのにここに挙げるというのは変だと思います。可能であればいいと思いますが、例えばこの場所に小学校をつくり、この小学校からどの中学校に行くかという、高草でもいいのですが、私はここに小中一貫校をつくってもいいのではないかと考えます。小中一貫校ができれば、新しい学校となりますので、理解がされやすいのではないかと考えます。ただし、土地があればの話です。どちらかといえば、私は案3がいいと思います。世紀小も大きいので、世紀小にも通わせると城北小のようになるので難しいと思います。北には賀露小もありますので、世紀小との間に小中一貫校があれば大規模の湖東中に行かなくてもいいですし、北中にも高草にも行かなくて済むのでいいのではないかと考えます。

会長

新しい学校というのは、場所を確保するのは難しいですね。

事務局

案3だけでなく、他の案もなぜここに挙がっているのか説明させていただきます。案1と案2は、第13期の校区審議会でも委員の皆さんから出た意見であると思います。選択制というのは、暫定的な経過措置を設けるというような表現にしております。案3につきましては、以前に千代水地区の皆さま

んと意見交換をしたときに、新しい学校があればいいというような意見を伺ったこともありますし、前回の審議会でも報告させていただきましたが、議会の中でそのような質問があったときに、一つの選択肢であると思うという教育長答弁がありましたので、入れさせていただきました。案4は、岩倉と宮ノ下の校区再編の時にこのような結論になったことがありましたので、議論にはありませんでしたが、一つの考えられる選択肢として挙げさせていただきました。案3の学校の位置については、第12期の時から実際に建設できる土地があるか地図上で探しましたが、難しいと思います。特に、この辺りには工業地域があって用途が制限されている地域であり、この辺りで学校が建てられるのは準工業地域や住居地域などになりますが、十分な土地がありませんでした。

会長

千代川以西エリアの視察を行った時に、委員さんからもこの辺に小学校が一つあれば解決するのではないかという声もありましたが、なかなか土地がありません。もう少し前であれば、そのような土地があったかもしれません。実際に土地がないということで、案3はなかなか難しいと思います。議会での質問にも、以前に小学校をつくってほしいという要望があったということがあったということで、挙げさせていただきましたが、困難な状況ではあります。次回以降、困難ということで削除させていただきたいと思います。

委員

実は、私はその案3が良いと思うのですが、それぞれの案について順に申したいと思います。案1が本来であれば理想であると思いますが、長い間の懸案で、かなり前に答申も出ていますが今日まで解決されていない状況であることを考えると、今回このような答申を出しても何の解決にもつながらないのではないかと思います。案1と案2は理想論ではありますが、解決案ではないと思います。案4も町区ごとに選択制とありますが、対象地域のうちの半分以上が町内会に加入していないか、町内会がない状態なので、合意形成が図れないということもありますので、例えばある町内は城北に行き、ある町内は世紀に行くという状況になり、毎朝子どもたちがクロスして登校する形の学校というのはあり得ないと思うので、案4もないかと思います。将来的に一番解決できる案として、案3が最も近いのですが、世紀小は校舎も古くなっており城北小の千代川以西の児童を移すとした場合に教室も十分ではないようですので、解決案として、城北校区の千代水地区、その周辺の大正、世紀校区を含めて広いエリアで校区編成を考えて、その中の選択肢として現在の世紀小の位置に新しい校区の世紀小をつくるという案もありますし、千代水地区に新しい学校をつくるという案もあるのではないかと思います。千代水は商業地域で、基本的に土地も平坦なので、買収などが可能であれば、一区画が大きいのでまとまった土地が確保しやすいかと思います。確かに、土地がないと言っておられましたが、私としては、商栄町にある県の埋蔵文化センターですとか、隣にパチンコ店などがあるのですが、そこが今の千代水公民館と隣接しているので、その区画全体を買えば、ある程度土地が確保できると思っています。一番簡単なものでは、警察署の前が運動場になっていますので、そこも敷地としては広いのですが、場所としてはどこからも遠い場所になるので、あまり現実的ではないと思っています。新しく建てるのが可能であれば、小中一貫校か、小学校は新設の小学校で、中学校は北中というのが一番理想で同意が得られやすい案ではないかと思います。

今回、答申として出すのであれば案3のような具体的な案ではなく、千代川以西をもう一度校区再編するという形の答申をして、長期的な考えでもう一度校区を考える中で、一つの考えですが千代川

以西の児童は城北小に通わず新しい学校に通うというパターンがいいと思います。確かに通学の安全面を考えると、小学生までは千代川を渡らせたくない強く思っております。災害などがなく、平時であれば、学校まで 3mほどの広い歩道がほぼ確保されているので、実は安全ではあります。なおかつ、人の往来もあるので、防犯や交通安全の意味では城北小に通うことは安全なのですが、ただ災害や地震などになれば千代川も堤防が崩れたりして物理的に子どもたちが帰れないということになりますので、やはり小学生までは難しいかなと思います。ただ中学生くらいになれば、何とかなるのではないかと思います。また、地域の意見を反映するとなると北中に行きたいというものもあるので、小学生までは渡らせませんが、中学生からは北中に行ってもいいのではないかと思います。それが解決しやすいのではないかと考えています。

今後の意見集約ということですが、実は千代水地区の自治会長から私に依頼がありまして、千代水地区の自治会に校区問題に関するアンケートを配っております。簡単なアンケートなのですが、今通っている学校はどこですか、将来通いたい学校はどこですかというような内容です。おそらく4月末か5月の中旬ぐらいが締切で、集約されると思います。千代水地区の自治会としては、現状のままですということ意見がまとまっているのですが、どちらかと言えば自治会の役員さんの意見に近いので、色々な方の意見を聴きたいということでアンケートを取られているそうなので、千代水地区の自治会に加入されておられる方については、多少の意見は吸い上げられるのではないかと考えております。そこで私は、中学校でも今回校区審議会でも議論している千代川以西の対象の中学生と保護者の方にアンケートを取ろうと考えています。さらに小学校でもアンケート取っていただければ、現在通っている子どもとその保護者の意見が把握できるのではないかと思います。地域の方は絶対に反対という意見が強いのですが、そのアンケートを取れば、もしかすると、どちらでもいいのではないかとというような、そこまで校区にはこだわられない方もいるかとは思っています。このようにアンケートをしていただければ、意見集約できるのではないかと考えています。

委員

私は案3ではないかと思いましたが、実は案1ということで最初は考えていたのですが、昭和50年からずっとやってきましたが、うまくいかなかったようです。そう考えたときに、案3であればスムーズに地域の方と合意ができるのではないかと思いました。もし、土地が確保できるということであれば、お金はかかりますが案3であれば住民との折り合いがつくのではないかと思っています。ただ、現実的なことを見て、お金も土地もないということになりましたら、案1という形で時間をかけてシフトしていくということを考えての方がよろしいかと思っております。この問題は、学校がなくなるという問題ではなく、今そこに住んでいる方が校区から外されるということにもものすごく抵抗があるのではないかと思っています。したがって時間的な猶予期間を設けて、6年~7年の間コンセンサスを得るといった期間を取っていくということが大切なのではないかと思っております。また、本日の意見にもありましたが、アンケートを取って、生の声をしっかりと聴くということが必要だと思います。そうすると、6月までに答申が出せるかという、なかなか厳しいと思いましたが、そういったことを踏まえて、現時点で考えれば、私は案1を推させていただきます。

会長

ご意見ありがとうございました。なかなか一つにまとまるという状況ではありません。これは、現実を反映したところだと思います。案1というのが一番すっきりしていると思うのですが、なかなか

そうもいかない部分もあるかもしれません。案3で新しい小学校をつくるというと、土地探しから、建物の予算からということで、また5~6年程度の相当な時間がかかると思います。もう一つは、現在の城北小の校舎は児童数の増加でパンク寸前であるという目の前の問題があります。さらに、適正規模を考えた場合に大きすぎになってきているという問題もあります。一時的にプレハブを建てて済むということでもないですし、小学校の児童数増加の課題をどうするかということと、安全面を考えて千代川西側は別の学校にするということと、リンクしている部分と、また別に考えた方がいい部分があります。場合によっては千代川以西だけでなく、東側の方で校区を変更して別の小学校に通っていただくことで児童数を抑えるということも考えられるかもしれません。そういったことも併せて考えないといけないかもしれません。

本日、ご意見をいただいた段階では、千代川以西の方に何らかのアンケートで、学校に通学しておられる方、通学されていない方も含めて地域の意見を集めるということは大事なことではないかと思えます。ただ、どのようなアンケートをするか、慎重に検討していかなければならないと思えます。先行して、千代水地区でアンケートを取られているということがありますので、これを見ながらということもあるかもしれませんし、このアンケートに含まれていない項目についても検討しないといけないと思えます。何らかの形で、答申をしたい気持ちは委員の皆さんにもあると思えますが、なかなか難しい状況ではないかと思えます。今日皆さんのご意見を伺ったところでは、とにかく住民の方の意識調査を何らかの形で行き、校区審議会としてまとめていく、保護者の方だけでなく全体の意見をどこかで集約できればと思っています。ただ、これもなかなか難しい部分があります。町内会がない、町内会に入っておられない方もたくさんいらっしゃる、公民館と町内会の範囲が複雑になっているところがある、ということもありますのでなかなかきれいな形でまとめるのは難しいかもしれませんが、それについては検討させていただいて、何らかの形で住民のご意見を伺えればと思えます。地域の役員の方だけにお話を伺ってもなかなか難しいだろうと思えますし、町内会ごとに意見が違いますとまたまとめるのも難しいですので、素直な形で意見の集約ができればアンケートがいいかもしれません。アンケートについても考慮しないと難しい面もあるかもしれませんので、質問の内容を含めて次回以降検討させていただきたいと思えます。また、案3については、削るという提案もありましたが、しばらくは残してある時期にまた検討させていただくことにしたいと思えます。実際には予算面や土地の取得ということでなかなか難しい面もあると思えます。ただ、地域からそういった意見もありますので、現時点では残しておきたいと思えます。

委員

先ほど新しい学校というご意見がありましたがそれに関連して、参考資料の31ページに学校の更新等の検討時期というのが掲載されており、世紀小学校が2016年からということになっています。もし、現実的に新しい学校というのが無理で、世紀小学校に通うことになった場合に、世紀小学校は改築になるのか新築になるのかどういう形になるのでしょうか。もし、新築になって新しい学校ができるということになれば、話もまとまりやすいのではないかと思ったところです。

事務局

新築ということはなかなか難しいかと思えます。世紀小の校舎の長寿命化策に向かう中で、教室不足の解消を図るための増築という話は出てくると思えます。施設自体に耐震性があっても仮に耐力度がなければ改修できませんし、その際には新築という考えもできると思えます。ただ、今の段階では、

そうした判断はなかなか難しいと思います。

会長

どちらになるかということは判断が難しいということですが。

事務局

今の段階で、判断が難しいということです。

会長

確かに、世紀小学校が何らかの形で改築か新築かしないといけない時期に来ていますので、そこに予算を入れて特別教室なども十分に増設して余裕のある校舎にして、いずれそちらに移っていただくという可能性もないわけではありません。ただ、それは住民の方がどう判断するかという問題もありまして、住民の方の意見も含めながら校区再編をしないといけないのですが、将来的にわたると、世紀小は一つの核になると思います。もう一つは、小規模の明治と東郷の問題があります。現在、小規模校転入制度を盛んに活用しておられ、多くの児童が通っておられます。このような形で発展していけばいいのですが、それでもあまりにも小さくなった場合は、どこかで考えざるをえなくなると思います。その受け皿としては、世紀小になるのではないかという感じはしています。ただ、それは先の話だと思えます。世紀小学校を改築するにあたってはある程度余裕のある改築をして、将来に備えていく必要があると思います。それは、間もなく判断しなければ時期が来ると思います。

事務局

鳥取市の中では一番古い校舎になりますので、近い将来何らかの手立てをしていかないといけない施設であります。

会長

そうすると、校区再編と絡めもう少し大きくするか、特別教室などの色々な施設の充実を図っていく必要も出てくるかもしれないということですね。このようなことも、この校区審議会でも念頭に置いていただきながら千代川以西エリアの課題と併せて他の小学校との将来像を考えていただく必要があるかと思えます。

本日は、委員の皆さんのご意見を伺うというところでとどめさせていただきますが、アンケートを行うとするとどのような内容で実施するか、全戸配布になると思うのですがどのように回収していくのか、検討させていただきたいと思えます。答申が出せるかどうかは、次回以降検討していきたいと思えます。よろしく申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返しします。

事務局

慎重なご審議をいただき、ありがとうございました。以上で、第15回鳥取市校区審議会を閉会します。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 渡 辺 勘治郎

署名委員 川 口 有美子